

赤谷プロジェクト 近況報告

企画運営会議の開催

平成19年度の第1回企画運営会議が、群馬県みなかみ町新治支所で9月28日(金)に開催されました。企画運営会議は赤谷プロジェクトの最高意思決定機関であり、年に2回開催されています。

今回の会議では、今年度の各プログラムの進捗状況の報告や、プロジェクトの参画機関からそれぞれが企画している事業や相談事項などについて話し合いました。

また、関東森林管理局からは、プロジェクトがこれまで実施してきた取組について中短期的な目標を設定すること、社会各層へのPR活動の一環としてパンフレットを作成することについて提案し、承認されました。

プロジェクトの取組がより一層社会に浸透するよう、より良いものを目指します。

なお、次回の開催は来年3月頃を予定しています。

日本イヌワシ研究会

合同調査への協力

「赤谷の森」には、一つがいのイヌ



多く的人数でイヌワシの行動を追います

ワシが暮らしています。イヌワシは生態系の頂点に立つアンブレラ種であることから、赤谷プロジェクトでは、森林生態系を探る上での指標種としてイヌワシのモニタリング調査を実施していることをこれまでの広報等で紹介してきました。

今回、日本イヌワシ研究会が主催する調査に赤谷プロジェクトが協力することで、「赤谷の森」に生息するイヌワシの大規模な調査を実施することができました。

日本イヌワシ研究会とは、これまで日本に生息するイヌワシの個体数調査などを手がけてきた専門家等から構成される集団です。調査は日本イヌワシ研究会から45名、赤谷プロジェクト関係者から15名が参加して10月6(土)～8日(月)の3日間に

わたって実施しました。このような大規模な調査は、赤谷プロジェクトが発足して初めてのことです。

広範囲に飛翔するイヌワシを多人数の専門家が分散して観察することで、イヌワシがどのように森林を利用しているのか、生息の中心域はどこであるのか、また、近接するイヌワシのつがいが存在するかなど、イヌワシの生態を解明する上で貴重なデータを収集することができました。

今後も日本イヌワシ研究会と協力しながら「赤谷の森」に棲む大型猛禽類の調査を実施したいと考えています。

地元の小学生への環境教育

赤谷プロジェクトの地元にある猿ヶ京小学校の三年生は、毎年、いきもの村を訪問し森や森に住む生き物の勉強をしています。今年も15人の



この葉っぱの「におい」は？
子供たちは興味津々



クサギ、読んで字のごとくの「におい」だけど、良い匂いと感じる人もいます。

元気な三年生がいきもの村にやってきました。

環境教育では、センサーカメラで撮影された動物の話の後、実際にセンサーカメラを設置しに森の中に入りました。森の中では、植物の「におい」をテーマに子供達と歩きました。スギ、ヒノキ、ミズメ、アブラチャン、オオバクロモジ、サンショウ、クサギ、ナギナタコウジュ、全て特徴ある「におい」がします。名前を聞いてその「におい」が想像できるでしょうか。「におい」は人それぞれ感じ方が違いますが、子供達にもいろいろな感じ方があったようで、どれ一つとして好き嫌いの意見が合うことはありませんでした。

このような機会を重ねることにより、子供達には植物や動物などに興味を持ってもらえればと考えています。

(赤谷森林環境保全ふれあいセンター)